

## 持続可能な地域コミュニティのあり方について

～若い世代とともにつくる地域の仕組み～

京都府福知山市 野々村 俊



はじめに

福知山市では、これまで自治会が地域コミュニティの形成における中核的な役割を担い、日常生活のふれあいや共同活動、共通の体験を通じて住民の連帯感や信頼関係による地域社会を形成してきた。

しかし、少子高齢化や単身世帯の増加、地域活動への無関心層の増大によって、自治会がこれまでのように地域コミュニティ形成の役割を担うことが困難になりつつある。昨年市が実施した自治会活動に関するアンケートでも、役員のなり手の不足や自治会長の負担の増大、会員の高齢化といった課題が多く挙げられるなど、将来にわたっての自治会の存続が危ぶまれている。こうしたことから、将来にわたって持続可能な地域コミュニティを形成していくには、地域の将来を担う若い世代が地域に関心を持ち、ともに地域コミュニティについて考えていくための仕組みが必要と考える。

そこで本稿では、はじめに福知山市の現状や課題を整理した上で、大正小学校区をモデルケースとして、地域の活動組織・団体へのヒアリングや、若い世代へのアンケートを実施することで、住民一人一人がこれからも安心、安全に楽しく暮らし続けることができる、持続可能な地域コミュニティの形成に必要な取組を明らかにし、行政としてのサポートのあり方について提案したい。

### 1. 福知山市の現状

#### (1) 自治会活動の課題認識について

市が自治会長に対して実施した自治会活動に関するアンケート調査(平成 30 年実施)において、自治会運営上の課題となっていることを尋ねたところ、回答のあった自治会長の 7 割以上が「会員の高齢化」、「役員のなり手不足」を挙げている。次に多かった回答としては「自治会長としての負担が重い」、「行事の参加者が少ない」という課題が挙げられており、地域コミュニティの形成を担ってきた自治会活動の維持が難しくなっていることが窺える。

#### (2) 災害時の支え合いについて

市は、過去から頻繁に洪水や土砂災害の被害を受けてきた。特に直近の 6 年間で 4 回大きな水害を経験しており、防災に関する意識は高い。平成 25 年に実施した「まちづくり市民アンケート調査」において、まちづくりを進める上で重要と思う項目を尋ねたところ、「自然災害に対する備え」という結果が得られている(2 位「医療サービス」、3 位「消防・

救急体制」)。

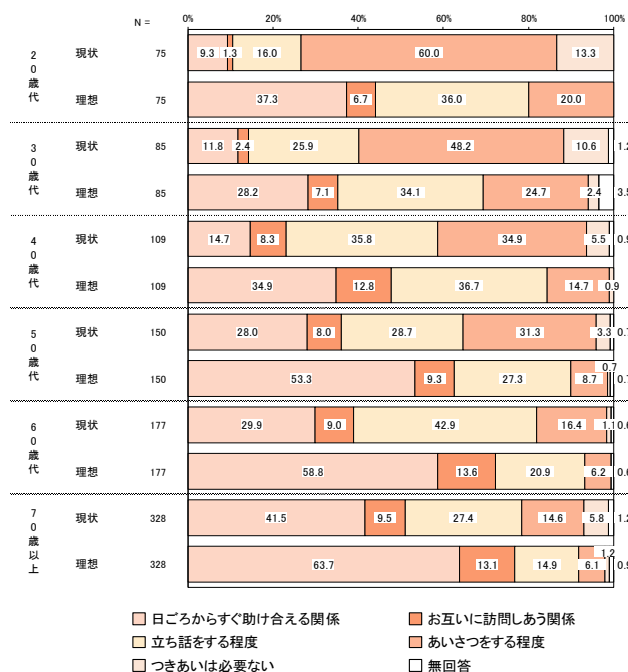
しかし、災害発生時に行政がとれる対応には限界があり、災害時などの有事に対応するためには、平時からの地域での支え合いが重要となる。

### (3) 近隣との付き合いの状況

第 3 次福知山市地域福祉計画の策定に関するアンケート(平成 28 年実施)から、地域住民の意識について確認する。地域における災害時の備えとして重要と思うことを尋ねたところ、「日ごろからのあいさつ、声かけや付き合い」が最も多く、地域でのつながりの重要性については理解されていると考えられる。

しかし、近所との付き合いの現状と、住みよいまちづくりに向けて必要と思う理想の付き合いの程度を尋ねた質問では、どの年代においても理想としては、現状よりも深い付き合いが必要と感じていることがわかった。特に年代が若くなるほど、日ごろからすぐ助け合える関係がある人の割合は少ない状況であった(図 1 参照)。

図 1 近隣との付き合いの現状と理想



## 2. 地域の現状・課題の把握

前章では、市においてこれまで地域コミュニティの形成を担ってきた自治会活動の担い手の不足や、若い世代ほど日ごろからすぐ助け合える関係がある人が少ないという状況を確認した。持続可能な地域コミュニティのあり方について考えるためには、それぞれの地域の現状や課題をより具体的に把握する必要があると考えるため、本稿では大正小学校区をモデルケースとして、地域へのヒアリングやアンケートを通して考察を深めていくこととする。

### (1) 大正小学校区の概要

大正小学校区(以下「大正地域」という)は福知山市の中央部に位置し、商業施設も立地している住宅市街地であるとともに、地区内には田畑が広がる田園風景も併せ持った地域であり、地域内には北近畿で唯一の大学である福知山公立大学がある。一方で、台風や集中豪雨の時には、地域全域で水害が発生する可能性がある地域でもある。

大正地域の大字である「堀」という地名は、かつてこの地域が堀村であったことに遡り、明治 22 年の町村制の施行により近隣の村と合併して曾我井村となった後、大正 7 年に当時の福知山町と合併し、現在に至っている。

大正地域で地域コミュニティの形成を担ってきた主な組織・団体については以下の通りである。

①大正小学校区全体を活動の対象とする組織・団体

ア 大堀区自治会（大正地区連合自治会長会）

大正地区連合自治会長会は「大堀区自治会」と呼ばれ、地域内の自治会長によって構成され、認可地縁団体として地区内にある財産区の管理の他、地域の敬老会を実施している。

イ 大正地区公民館本館

大正地区公民館本館（以下「地区公民館」という）は、昭和50年に、当時自治会が担っていた社会教育、生涯学習の機能を担う組織として設立された自治公民館である。組織は文化教養部、体育部、青少年部、婦人部、広報部と、本部役員として館長、副館長、主事、会計、部長、監事で構成され、公民館まつり等の地域行事や、生涯学習の機会を通して、地域のつながりを生み出す中核的な組織として機能している。

ウ 大正地区福祉推進協議会

市社会福祉協議会の支援の下、地域活動の連携推進を図り、地域福祉の充実に向けて取り組む自主組織として活動している。会長は大堀区自治会長、副会長は地区公民館長と大正学区老人クラブ連絡協議会会長が務めているほか、事務局長、幹事には地域の関係団体の長や民生児童委員が就任し、講演会や研修会の開催、広報誌の作成等を実施している。

②各自治会単位を活動の対象とする組織・団体

ア 自治会

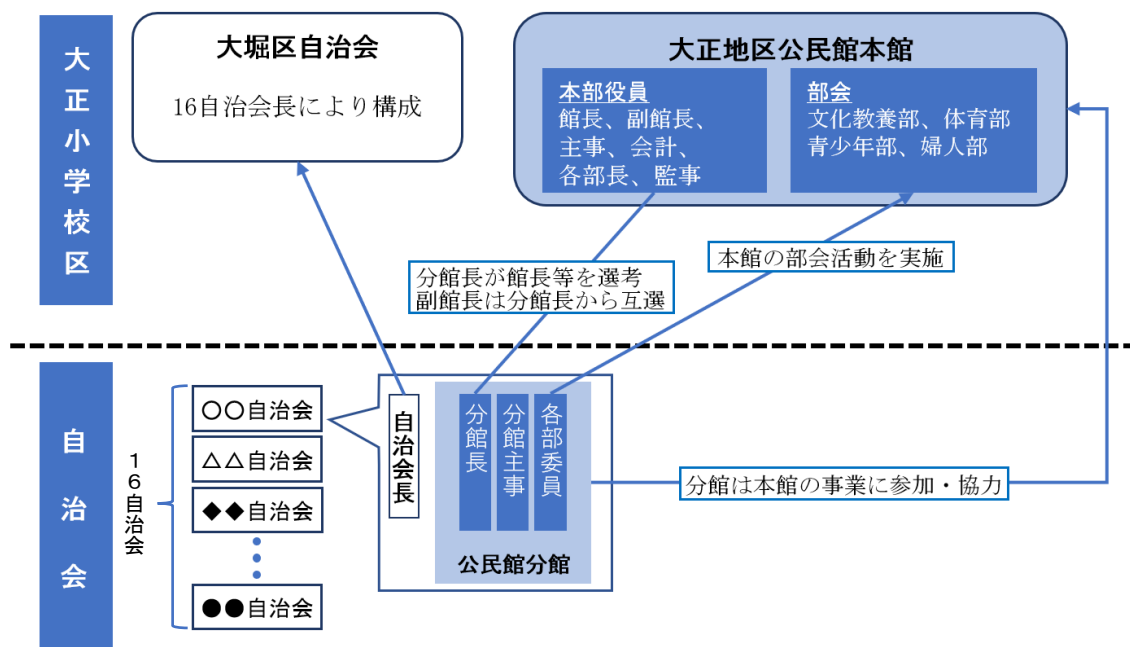
福知山市で地域コミュニティの形成における中核的な役割を担う組織であり、地域の自治に関するさまざまな取組の主体として活動している。主要な活動としては、清掃美化活動、防災防犯活動、高齢者の見守り、行政からの依頼事項への対応など多岐にわたる。

イ 大正地区公民館分館（以下「公民館分館」という）

各自治会から分館長、分館主事と各部委員が選出され、地区公民館の事業に参加協力するほか、分館によっては単独でも事業を実施しており、資源回収やグランドゴルフ大会、ふれあい祭りなどを行っている。地区公民館の館長、主事、会計、監事は各自治会の分館長によって組織される分館長会によって選考され、副館長は分館長の互選となっている。

以上の組織とその関係を示したのが図2である。

図 2 大正地域の自治会及び公民館の概要



(2) 大正地域の人口

大正地域は人口 6,436 人で、16 の自治会によって構成されている。平成 18 年の合併以降、福知山市全体では人口が 5.5%減少しているが、大正地域では 1.6%の減少にとどまっております。高齢化率は 24.3%で市内平均の 29.2%を下回っている。

しかし、大正地域を構成する 16 自治会の状況を見ると、自治会ごとに状況は異なっている。分譲地の造成やアパートの新築による転入者が多い地域は人口が維持、もしくは若干増加しているが、その他では、増減の波がある自治会もあるものの、総じて人口減少が進んでいることから、大正地域では分譲地やアパート等への転入によって、急激な人口減少、高齢化が抑制されている状況と考えられる。

(3) 地域活動の状況・課題認識

①ヒアリング調査

次に、大正地域での若い世代の地域活動への参加の状況等を把握するため、地域で活動している組織・団体に対して、活動の状況や課題認識についてヒアリングを行った

表 1 大正地区の活動団体に対するヒアリング結果概要

組織名 (応対者)	組織構成	活動内容	課題
大堀区自治会 (会長 60代)	・大正地区の 16 自治会の自治会長により構成されている。	・地区全体の敬老会の実施や総会の開催 ・堀山を中心とした資産(財産区)の管理、地域の災害復旧の推進	・自治会長のあて職となっていることから、非常に多忙となっている。 ・福祉や防災など地域住民の暮らしと安全を守り支える取組に注力したいができていない。 ・自治会単位では、活動の担い手確保が大きな課題となっている。 ・高齢化が進み、自治会単位では対応が難しくなっていく課題に大堀区自治会が連携して対応していくことが組織として果たすべき役割と考えている。
地区公民館 (館長 50代) (主事 60代)	・各自治会から選出された分館長により選任された館長、主事等の本部と、各自治会より選出された部会員により構成されている。	・公民館まつりやソフトボール大会をはじめ、各部会で行事を開催している。 ・地域住民同士のつながりの場の創出や生涯学習の機会を提供している。	・人材育成と活動の担い手確保が最も重要な課題と認識している。 ・継続して活動してもらえることが重要であるが、新しい風が組織には必要と感じている。 ・基本的には自治会から選出された委員が就くことになるので、その中から次代を担う人材を育てていくということになるため、新たな担い手を自分たちで一から探すということは非常に難しい。 ・意欲のある人でも、自治会の都合で 1 年でやめてしまうことがある。
福祉推進協議会 (事務局長 50代)	・会長は大堀区自治会長、副会長に地区公民館長の他、地区内で活動する様々な組織のメンバーにより構成されている。	・地域の一人暮らし高齢者宅の見守り訪問や視察研修を実施 ・地域住民自身の手で地域福祉の充実に向け取り組む自主組織として、民生児童委員と連携して取組を進めている。	・活動は広報誌の編集や一人暮らし高齢者の見守り訪問といった従来からの定例的な活動の実施に留まっている。 ・現状の課題を把握して解決に向けた取組を進めるような体制が取れていない。 ・実際の活動は自治会長や民生児童委員であり、ボランティアなどでの参加はほぼない。

表 1 はヒアリングを行った結果をまとめたものである。ヒアリングを実施した組織・団体からは、「活動の担い手確保」「人材の育成」という活動上の課題を抱えていることが確認できた。地区公民館では、親子レクリエーションを新たに開催するなど、子どもを通じて親世代が地域に顔を出す機会づくりを進めることで、担い手の不足という課題解決に向けて取り組もうとしている話も聞くことができたが、それぞれの組織で、課題解決のための取組を図ることが難しいと感じている様子が窺えた。

ヒアリング結果から、大正地域で活動する組織・団体の現状や課題を整理すると、以下のような状況であると考えられる。

- ・活動の担い手は、あて職や自治会単位での推薦、選出という方法が多く、担い手の確保が課題である反面、意欲のある人がいたとしても任期とともに活動から離れてしまう状況がある。
- ・実施事業の改善等は図られているものの、それぞれの組織の年間活動はほぼ定例化されており、個々の組織として事業の抜本的な見直しや活動のあり方そのものを検討、実践

することは労力面、意識面からも難しい。

- ・組織間で職による連携はあるものの、それぞれの活動自体を他の組織と調整・連携して展開してはいない。

## ②アンケート調査

大正地域の組織・団体へのヒアリングを踏まえ、地域の将来を担う若い世代が、現在の地域活動にどのような関心を持ち、また地域とどのようなつながりを持って生活しているのか把握するためのアンケート調査を実施した。

アンケートは、地域と関わる機会が多いと考えられる 20 歳代～50 歳代の子育て世帯を中心に 100 通を配布し、85 通(回収率 85.0%)の回答を得た(別添資料参照)。

### ア 地域への愛着や活動への参加の状況

回答のあった住民の 8 割以上が、自分の住む地域への愛着や誇りについては「とても感じている」「ある程度感じている」と回答しており、多くの住民が地域への愛着を感じていることがわかった。

また、地域の活動への参加状況については、「頻繁に参加している」「時々参加している」という回答が多かったのは「公民館まつり」、「夏祭り・地蔵盆」であり、次に多かったのは「清掃活動」、「古紙・廃品回収」であった(図 3 参照)。「公民館まつり」「夏祭り・地蔵盆」に参加した感想としては、「楽しく過

ごせた」という回答が多く、気軽に参加できるという特徴が参加につながっていると考えられる。一方、「清掃活動」、「古紙・廃品回収」に参加する理由は「活動によって地域に貢献できる」という回答が多く、若い世代も地域への関心を持っていることが窺える。

図 3 活動への参加状況

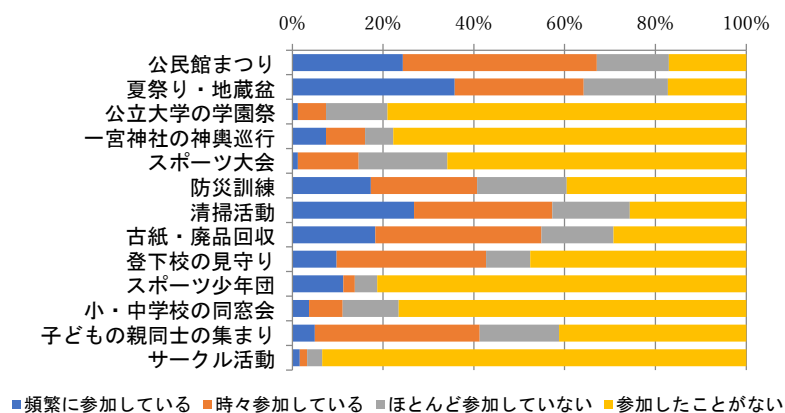
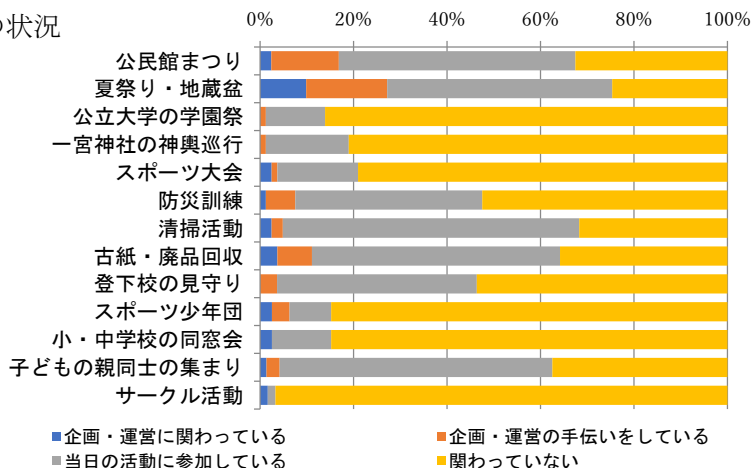


図 4 活動への関わり方の状況



### イ 地域での活動への関わり方の状況

しかしながら、それぞれの活動への参加の仕方や程度について問うたところ、各活動の「企画・運営」「企画・運営の手伝い」として関わっている人は非常に少ないことがわかった。関わっている場合で

も、「当日の活動に参加」という人の割合が高く、公民館まつりをはじめ、多くの人が参加している活動はあるものの、若い世代が地域の活動の担い手にはなっていないことが確認できた。これは、ヒアリングから把握した組織・団体の状況認識と一致している（図4参照）。

#### ウ 参加している活動や地域住民との付き合い

一方で、上記のグラフにある活動以外に、参加している活動や、地域の人との付き合いについて確認したところ、子どもの友達家族との食事会、バーベキュー、スポーツ等といった、子どもを通じた親同士の付き合いや、雪かき、水害時の情報交換や声掛けなど、地域での支え合いも行われていることがわかった。

さらに、地域での住民同士の付き合いの程度を確認したところ、普段から訪問しあえる関係の人がいると答えた人は、「特定の人だけ」も含めれば67.9%もいることがわかった。

また、9割以上の人

つをする程度の人間関係があ

ると答えており、若い世代が

地域の中で活動に参加し、付

き合いがある状況が窺える

（図5参照）。

さらに、67.9%の人は、地

域の人とSNSやメールでつな

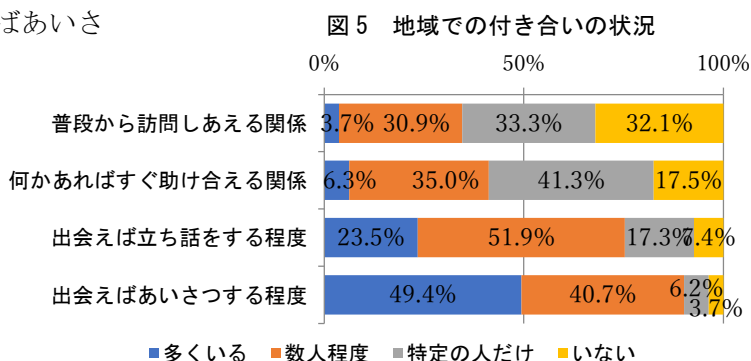
がりがあると答えていること

から、若い世代はさまざまな機会や方法によって、地域の中で関係を形成していることがアンケートから見て取れる。

調査結果から、若い世代は、気軽に楽しんで参加できる祭りなどのイベントに多く参加しているが、いずれの活動でも、当日だけの参加などが多く、企画・運営に関わっている人は非常に少ないことが明らかになった。

しかし、若い世代のなかでの活動についてさらに確認したところ、子どもを通じた親同士のイベントや地域での支え合いなどによって、地域住民との関係が築かれており、さらにSNSなど、これまでとは違う形での地域のつながりがあることも確認できた。

これまで地域コミュニティの形成は、自治会等の活動がその中核的な役割を担い、多くの地域住民がその活動に参加し、関わることで維持されてきた。しかし、個人の価値観や生活スタイルの多様化、情報化社会の進展など、地域を取り巻く環境が大きく変化する中で、若い世代は自分たちの生活に適した方法で地域と関わり、つながりを形成しているということが、このアンケートでは明らかになった。若い世代の住民も地域に愛着を持ち、地域で活動することで住民同士のつながりを作っているのであれば、地域との関係が希薄になっている、というのは正確ではなく、活動の担い手不足という課題は、若い世代が作っている地域との関係が、現在地域活動を担っている世代から見えていないことが本当の



課題であると考える。

### 3. 課題に対する取組の提案

本稿での調査を踏まえて、若い世代とともにつくる持続可能な地域コミュニティの仕組みを構築するためには、現在様々な地域活動の担い手として活躍している世代と、将来の地域を担う若い世代が、地域でのお互いの活動状況や、地域に対する思いを共有することから始める必要があると考える。そのため、今後、持続可能な地域の仕組みづくりに向けて取り組んでいくべきことについて、他自治体での取組事例を踏まえて提案したい。

#### (1) 取組事例 岩手県紫波町古館地区

本研修での先進地視察で訪れた岩手県紫波町では、身近な地域課題を解決し、地域の実情にあったきめ細かなまちづくりを推進するための計画を、住民自らが策定するための支援として、平成18年から町内の各地区で「地区創造会議」を開催し、住民によるワークショップ形式の話し合いを進めてきた。その結果、特に古館地区では地域住民の活動が盛んな土壌が築かれている。

紫波町古館地区は、町内では最も人口が多く、新興住宅地として発展してきた地域であるが、地区創造会議の中で「地域と子どもが関わる機会がない」、「子どもとあいさつを交わすことがない」、「子ども会活動は親世代が主導している」という現状についての声が挙げられていた。そこで、子育てに関心のある地域の人と子育て世代と一緒に話し合う場が必要という意見がまとまり、地域で子どもが育つ環境を作ることを目的として、「子どもを見守るまちづくりプロジェクト(以下「こみまちプロジェクト」という)」が発足した。

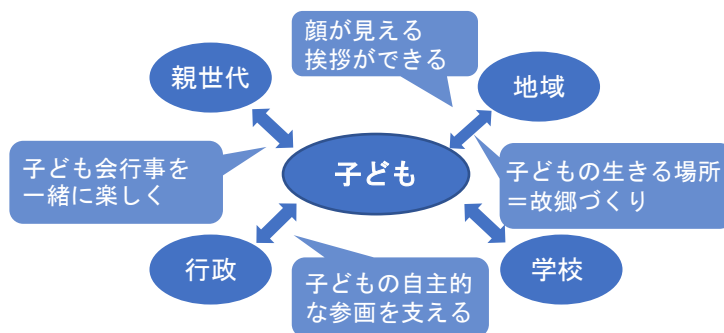
こみまちプロジェクトでは、地域で子どもが育つ環境を作る中で、多くの住民が幸せになれる地域づくりを目指して取組を行っている。その活動の1つに子どもリーダー研修会があり、小学生を対象として、子どもと大人が一緒になって地域でやってみたいことを話し合い、実現する方法を考え、実践するというプログラムを展開している。こうした取組によって、子どものリーダーとしての自覚や考える力を育むとともに、地域を巻き込み、親世代や学校と一緒に子どもを見守ることで、子どもたちと地域とのつながりを生み出す機会となっている。その結果、「子どもが育ちやすい環境づくり」という共通の目的によって、地域と子育て世代の関係性が構築され、それぞれの立場でできることをするという共通認識が図られている。

こみまちプロジェクトでは、地域で子どもが育つ環境を作る中で、多くの住民が幸せになれる地域づくりを目指して取組を行っている。その活動の1つに子どもリーダー研修会があり、小学生を対象として、子どもと大人が一緒になって地域でやってみたいことを話し合い、実現する方法を考え、実践するというプログラムを展開している。こうした取組によって、子どものリーダーとしての自覚や考える力を育むとともに、地域を巻き込み、親世代や学校と一緒に子どもを見守ることで、子どもたちと地域とのつながりを生み出す機会となっている。その結果、「子どもが育ちやすい環境づくり」という共通の目的によって、地域と子育て世代の関係性が構築され、それぞれの立場でできることをするという共通認識が図られている。

#### (2) 世代間の思いを共有できる場づくり

紫波町古館地区では、子どもが育ちやすい環境づくりという共通の目的に向けた取組の

図6 子どもが育ちやすい環境づくり





中で、地域で子育てに関心のある世代と子育て世代が関係を構築することができていた。仕事や育児等で忙しい子育て世代を地域で支えようと取り組んだことで、結果的に、お互いの顔が見える地域づくりが進むとともに、子育て世代にとっては地域で子どもの成長を支えてもらえるという安心感が生まれている。その後、古館地区では、こうした多世代のつながりのなかで、地域運営組織をつくる動きが芽生え、取組が進められている。

世代を超えて地域がつながることで、地域に支えてもらった現在の子育て世代が、今度は将来の子育て世代を支える立場となれば、地域の活動は持続可能な取組として引き継がれていくだろう。

本稿のアンケートでも、子どもを接点とした付き合いが多かったことから、大正地域でも子どもを接点として若い世代と地域の活動を担っている世代との関係づくりを進めることは有効と考えられる。しかし、まずは具体的な取組内容を考える以前に、それぞれの世代の現状や思いを共有する場をつくることから始めるべきと考える。

#### ①地区公民館の役員研修会×若い世代のワークショップ

地区公民館では、年に1度役員研修会を開催しており、この研修会には公民館運営審議会構成団体として大堀区自治会、老人クラブ連合会、中学校、小学校、民生児童委員等も参加しており、従来からの地域コミュニティ形成の役割を担ってきた組織・団体が一堂に会する機会となる。今年度は公民館まつりをテーマにグループワークを開催しているが、ここに若い世代の親にも参加してもらい、お互いの現状や地域活動への思いなどを共有する場としたい。

また、今年度の役員研修会では、コーディネーターを福知山公立大学の教授に依頼していることから、今後も継続して地域コミュニティの形成に向けた取組に関わってもらいたいと考えるが、大学との継続的な関係の構築などを地区公民館が行うことは困難であるため、行政には地域と大学との橋渡し役としての役割が求められる。

なお、今回は子育て世代を中心に調査を実施したため、大学生の地域との関わりの状況を確認できていないが、地域の若い世代として大学生にどのように地域と関わってもらいたいという点については今後検討すべき課題である。

#### ②SNSを活用した情報発信

アンケートによって、若い世代で SNS 等を利用したつながりがあることがわかったため、若い世代に地域の活動を知ってもらうツールとして SNS を活用することが有効であると考えられる。アンケートでは、複数の方から水害に対する意見があった。その内容は水害への不安や、水害によって地域で支え合う意識が高まったというものであり、水害時には浸水状況の情報交換を行っているという意見もあったことから、災害時の情報共有という点からも SNS による情報発信は需要が見込まれるため、フェイスブック等の開設を検討する価値があるのではないだろうか。ただし、現時点で大正地域には、地域のすべての活動を把握し、取りまとめるような役割を担う組織等はないため、SNS をどう管理するかは検討が必要となる。

しかしながら、現在それぞれの組織・団体の活動の広報は定期的に作成する広報誌の全戸配布等に限られるため、先に提案したワークショップでの意見交換のテーマの一つとして、SNSによる地域の情報発信に対する若い世代の意向を確認し、試行的に公民館で管理するなどの方法も考えられるだろう。

### (3) 地域に寄り添う行政の支援

行政は地域が主体的に地域コミュニティの形成に取り組めるよう、地域住民の力だけでは活動を進めることが難しい局面に、適切な支援を実施していくことが求められる。本稿の提案であれば、ワークショップのコーディネーターとしての外部人材や、SNSの活用に向けた地域の組織・団体の意見集約、調整を担う人材の支援が非常に重要と考えられる。

紫波町では、地域課題の解決にむけた新しい地域コミュニティの仕組みづくりを進める地域に対して、地域が求める支援を提供するための支援制度を設計している。古館地区では、公民館を拠点として、地域にある組織・団体が連携し、地域課題の解決に協力するネットワークづくりを進めており、この取組に対して紫波町は、協議等に係る経費への支援とともに、意見調整等を行う人材の派遣を実施している。古館地区への人的支援では、総務省の集落支援員制度を活用し、公民館の指導員を勤めていた方に委嘱することで、取組を進める体制の整備を支援している。

紫波町では地域の取組を支援するために、行政の担当者が地域に入り込み、課題を共有する中で必要な支援制度の設計をしていることから、福知山市においても、地域への適切な支援を行うためには、行政が地域住民と地域課題を共有することが重要である。

### おわりに

福知山市では、各地域の組織や住民自治のあるべき方向性について、地域運営組織の設立を視野に入れた検討が進められている。本稿での提案が、大正地域での持続可能な地域コミュニティの仕組みづくりに果たす役割は微々たるものかもしれないが、ヒアリングやアンケートを実施し、地域の現状や課題を把握しなければ、本稿の課題認識や提案を整理することは不可能であった。

持続可能な地域コミュニティは、行政が主導して作るのではなく、地域住民が自分たちの思いを実現するために主体的に取り組む一つ一つの過程の中でのみ形作られていくものである。そして、その過程を進めるために必要となる支援の方法を考え、提供することで地域の人々の思いをつなぐ役割が行政には求められている。

行政職員としても、地域住民としても、もっと地域のことを知り、主体的に取り組む人材となれるよう今後も精進したい。

【参考文献・参考資料】

- ・小林文人・伊藤長和・李正連編著（2013）『日本の社会教育・生涯学習—新しい時代に向けて—』株式会社大学教育出版
- ・総務省（2016）『地域の課題解決を目指す地域運営組織 —その量的拡大と質的向上に向けて—最終報告』総務省
- ・総務省（2018）『地域運営組織の形成及び持続的な運営に関する調査研究事業報告書』総務省
- ・築山崇（2003）「地域福祉活動において学習活動がもつ意味について—福祉拠点・公民館の役割を焦点に一」、京都府立大学学術報告（人文・社会）第 55 号、CiNii
- ・（一社）農山漁村文化協会編（2018）『むらの困りごと解決隊 実践に学ぶ地域運営組織』・（一社）農山漁村文化協会
- ・山中雄次（2018）「地域運営組織の体制に関する一考察～地域の主要なアクターとなりえるか～」、作新学院大学論集第 8 号、CiNii

別添資料 大正地域での関わりや関心ごとについての意識調査 集計結果

調査期間：平成 30 年 12 月 31 日～平成 31 年 1 月 8 日  
 調査対象：子育て世代を中心とした 20 歳代～50 歳代の大正地域在住者 100 名  
 実施方法：筆者の知人を介して、対象者へ調査票を配布、実施した  
 回収率：85.0% (85 通)

問 1 あなたの性別を教えてください (〇は 1 つ)

	人数	割合
男	39	45.9%
女	42	49.4%
その他	4	4.7%

問 2 あなたの年齢を教えてください (〇は 1 つ)

	人数	割合
20 歳代	5	6.0%
30 歳代	33	39.3%
40 歳代	36	42.9%
50 歳代	9	10.7%
60 歳以上	1	1.2%

問 3 大正地域での居住年数はどのくらいですか (〇は 1 つ)

	人数	割合
5 年未満	10	11.8%
5 年～10 年未満	24	28.2%
10 年～15 年未満	13	15.3%
15 年～20 年未満	17	20.0%
20 年以上	21	24.7%

問 4 現在お住まいの地域に愛着や誇りを感じていますか  
(〇は 1 つ)

	人数	割合
とても感じている	6	7.1%
ある程度感じている	63	74.1%
あまり感じていない	15	17.6%
全く感じていない	1	1.2%

問5 下表の活動等について、参加状況を教えてください

	頻繁に参加している	時々参加している	ほとんど参加していない	参加したことがない
公民館まつり	20	35	13	14
夏祭り・地蔵盆	29	23	15	14
公立大学の学園祭	1	5	11	64
一宮神社の神輿巡行	6	7	5	63
スポーツ大会	1	11	16	54
防災訓練	14	19	16	32
清掃活動	22	25	14	21
古紙・廃品回収	15	30	13	24
登下校の見守り	8	27	8	39
スポーツ少年団	9	2	4	65
小・中学校の同窓会	3	6	10	62
子どもの親同士の集まり	4	29	14	33
サークル活動	1	1	2	57

問6 下表の活動等について、どのような形で関わったり、参加したりしていますか

列1	企画・運営に関わっている	企画・運営の手伝いをしている	当日の活動に参加している	関わっていない
公民館まつり	2	12	42	27
夏祭り・地蔵盆	8	14	39	20
公立大学の学園祭	0	1	10	68
一宮神社の神輿巡行	0	1	14	64
スポーツ大会	2	1	14	64
防災訓練	1	5	32	42
清掃活動	2	2	52	26
古紙・廃品回収	3	6	43	29
登下校の見守り	0	3	35	44
スポーツ少年団	2	3	7	67
小・中学校の同窓会	2	0	10	67
子どもの親同士の集まり	1	2	42	27
サークル活動	1	0	1	59

問7 下表の活動等について、あなたは今後、どの程度参加したいと思いますか

	とても参加したい	できれば参加したい	どちらともいえない	あまり参加したくない	参加したくない
公民館まつり	4	40	29	7	3
夏祭り・地蔵盆	12	32	27	7	3
公立大学の学園祭	0	18	36	16	10
一宮神社の神輿巡行	3	15	34	14	14
スポーツ大会	1	16	38	16	10
防災訓練	6	36	28	8	3
清掃活動	0	27	42	11	0
古紙・廃品回収	2	42	28	8	1
登下校の見守り	3	32	35	9	3
スポーツ少年団	6	9	38	9	17
小・中学校の同窓会	3	14	39	7	17
子どもの親同士の集まり	3	29	32	7	8
サークル活動	2	8	32	5	13

問8 下表の活動等について、関わったり参加したりした理由は何ですか  
(該当するものすべてに○)

	活動によって地域に貢献できる	新しい人間関係が築ける	充実感や達成感を感じられる	新しい知識や能力が身につく	自分の能力や経験を生かせる	楽しく、興味のある内容	参加しやすい雰囲気がある	自分の可能な範囲で活動できる	知り合いが参加している	あて職や付き合いで仕方なく	その他
公民館まつり	27	30	7	7	3	26	29	20	22	19	1
夏祭り・地蔵盆	22	20	4	4	2	17	26	19	15	11	5
公立大学の学園祭	5	5	3	1	0	14	5	4	6	3	2
一宮神社の神輿巡行	9	8	2	0	0	2	1	3	8	3	2
スポーツ大会	9	11	4	4	6	9	5	9	6	7	3
防災訓練	27	8	5	13	3	0	6	13	8	9	2
清掃活動	44	8	4	1	0	0	5	15	6	13	1
古紙・廃品回収	32	4	4	0	2	1	7	13	7	10	3
登下校の見守り	21	4	3	0	2	0	1	15	4	8	4
スポーツ少年団	3	11	3	1	2	9	4	3	4	2	3
小・中学校の同窓会	1	6	1	2	1	12	4	0	8	1	2
子どもの親同士の集まり	1	16	1	1	0	13	9	6	10	4	3
サークル活動	0	3	1	2	1	3	1	1	2	1	1

問9 下表の活動等について、参加してどのように感じましたか  
(該当するものすべてに○)

	地域に貢献できた	新しい人間関係が築けた	充実感、達成感を感じる機会となった	新しい知識や能力身に付けられた	楽しく過ごせた	もっといい活動ができると感じた	期待していた活動と違った	活動の継続が難しいと感じた
公民館まつり	17	13	3	1	37	2	0	4
夏祭り・地藏盆	17	17	5	1	37	3	0	7
公立大学の学園祭	3	3	1	3	7	2	1	1
一宮神社の神輿巡行	10	5	1	1	6	0	1	1
スポーツ大会	9	10	6	0	9	0	1	2
防災訓練	25	1	6	13	1	0	1	1
清掃活動	36	6	12	0	1	1	0	3
古紙・廃品回収	41	4	10	1	6	1	0	0
登下校の見守り	24	4	5	0	6	2	0	2
スポーツ少年団	2	5	3	2	9	1	0	1
小・中学校の同窓会	0	1	1	2	5	0	0	0
子どもの親同士の集まり	0	9	3	2	16	0	0	0
サークル活動	0	2	1	1	3	0	0	0

問10 問5～9でお尋ねした以外に、楽しみながら参加している活動（趣味、サークル、イベント等）があれば教えてください（自由記述）

大正地域の活動

友人とフリーマーケット出店

上の子どもの同級生の保護者（パパ友&ママ友）とのインディアカ

ロードバイク

飲み会

ママ友とランチ

子どもの友達の家族とBBQや食事会

スクエアダンスサークル

雪かき

近所の友人とランチ

おもちつき

ホームパーティー

職場の旅行

みこし

亥の子祭り（高畑）に子どもが参加

公民館でされていた、大文字習字に子どもが参加

**大正以外での活動**

おはなし会への参加

友人とランチ

友人と買物

友人と忘年会（ディナー）など

職場の人との旅行や食事会

子ども会の行事

近所の友人とランチ

職場の野球部

ゲストスピーカーを呼んで夢を語る会

定期市の広報・運営

棚田オーナー

同い年の子どもの親の集まり(親も同級生)

てづくりサークル

釣り

BBQ

息子の同級生とクリスマスパーティー

ふれあいまつり

ピアノ発表会

清掃活動は地域の方と出会い、近況のお話をしながら地域のことを教えていただきながら、地域を美しく保てるとても良い活動と認識しています

バザー出店

女子会



**問 1 1 大正地域の方とメールや SNS でつながりがありますか**

	人数	割合
はい	55	67.9%
いいえ	26	32.1%

**問 1 2 大正地域で以下のようなお付き合いのある人がどれくらいいますか。**

	多くいる	数人程度	特定の人 だけ	いない
普段から訪問しあえる関係	3	25	27	26
何かあればすぐ助け合える関係	5	28	33	14
出会えば立ち話をする程度	19	42	14	6
出会えばあいさつする程度	40	33	5	3

**問 1 3 大正地域の人とお付き合いがある方は、具体的にどんなお付き合いをしていますか。(自由記述)**

裏の家の畑をかりている。
畑をかりている ← お土産をもっていったりする
特にお付き合いはありません
職場の同僚、雪かき
近所の方たちと雪かき、友人とランチや家であそぶ
自分の友達家族と一緒に BBQ や鍋 子どもの友達の家族と一緒に Xmas パーティ 子どもの友達の家族と一緒にハロウィンパーティ
自分、子供の友達の家族と BBQ、鍋 等
参観日等、行事がある日にママ友とランチ 大雨の時、用水路や低い道路の浸水状況等の情報交換
自宅周辺の草刈
子ども・親と一緒に遊びに行く
保育園の付き合い
お家でお茶をする
子どもの友達家族と遊びに行く 子どもの欠席連絡をお願いする 服をもらったり、あげたりする

学校の行事（参観日や発表会、運動会）のときに一緒に行ったり、話したりする。おうちへ行ってご飯を食べたり、お茶をしたりする。

子どもの友達の家族とバーベキューや食事会

お互いの家の行き来。買物で出会えば立ち話

スポーツ、飲み

子どもの友達の家族と一緒にバーベキュー、旅行等

雪かき、子どもと一緒に家に遊びに行く

消防団の活動、市役所内の懇親会

子どもの友達家族でバーベキュー、遊びに出かける

BBQ、子ども同士が遊ぶ

BBQ、定期的なホームパーティー

BBQ、クリパ

外食、家で遊ぶ

BBQ、地域行事

子ども、親同士集まり、家や公園で遊んだり、季節の行事を企画している

こどものスポーツと通じての食事会

こどものスポーツを通じての交流

消防団活動

住んでいる近所の方々とは台風のとき雨水がひどくなってきたら、声掛けして避難したりしています。近所の方々とは災害があってから良い関係が築けています。

子どもの友達仲間とバレーボールチームを作り活動している。母友達とランチ仲間。

子どもの友達家族と食事

組内の行事（新年会、会合など）

飲み会

子どもの友達の家族と一緒にバーベキュー、旅行など幼なじみとの飲み会（新年会）など

食事会、バーベキュー等

飲み友達

子どもの友達家族とバーベキュー、キャンプ

子どもの友達家族と釣りに行く  
持ちより夕食会

友達家族とBBQ、飲み会、そりすべり

**問 1 4 立ち話やあいさつをする程度の人と、助け合えるような関係になるにはどんなことが必要だと思いますか。(○は1つ)**

	人数	割合
普段から交流する機会が増えれば	42	55.3%
共通の趣味や関心事が見つければ	14	18.4%
共通の知人がいれば	7	9.2%
相手から求めてもらえば	9	11.8%
助け合う必要を感じない	3	3.9%
その他	1	1.3%

**大正地域の良いところや、良くなってほしいと思うところがあれば教えてください**

治安が悪いのでこわい。安心して生活できる様になればと願っています。

協力的な体制がとれていると思います。

あたたかいよい地域だと思います。(少なくとも自分の自治会は)

小・中学校のPTAの役や、公民館婦人部などは、次はどこ、次は南本堀の○組・・・など、持ちまわれる様になっているが、同じ役をずっとされている方などのご苦労などを考えると、もっと40代もたくさんいるのだから、公平に持ちまわりを決めて(○年ずつとか)皆が、順番に手伝い、貢献できる形が生まれたら、すごいことだなと思います。

子ども達が外でおもいっきり遊べる公園が少ないです。  
※学校のグラウンドは土日は野球・サッカー、地域の公園はグランドゴルフ等で使用出来ない為、近くにそういった場所があれば、交流する機会も増えると思います。

福知山城、ゆらのガーデンがあるのにパツとしない感じがある。ゆらのガーデン前が(前の道路)人が集まるような通りになればいいなと思う。

自治会、公民館等自治機能がきちんと構築されている

商業施設、スーパーなども近く、生活しやすい地域と思います。  
住まいが高畑だが、外灯(防犯灯)が少ないので、増えるといいなあ。橋は新しくなったので、子どもの登下校は安全になったのは、ありがたい。

住環境がいい反面、自治会活動への参加が難しい人が多い(仕事などの関係か、役員選出でも参加したがない人もいる。)違う世代間の交流が普段はほとんどない。難しいが、人の関係がもう少し親密になれば。

初めて組長をした際に、前の人にやり方を聞くと「自分たちのやり方でやればいいで、前は前や」と言ってもらえて、すごく受け入れられた気になった。半面、田舎のところもあり地域の人のうわさ話などもありということがあるので、みんな平等になればいいなと思う。しかしながら、個人としては、ほとんど日中仕事で留守にしているため、交流の機会が限られている現状。

スーパー(さとうや業務スーパー)、飲食店が多く、生活の利便性が良い  
災害対応  
1人暮らしや支援が必要な高齢者の方の集いの場(サロン、体操教室など)

世代の違いを気にすることなく、お互いに協力しあえるのがよい。

小学校や保育園などで知り合っていると声かけしやすいが、住んでいる地域（自治会）に知らない人ばかりだと、色々な情報が得にくい。特にアパート住まいだと回覧板も回ってこないの、知らない事が多々あります。もっと公平に情報を得られるようになれば良いなと思います。

校区が広すぎず、狭すぎず、また駅（中心部）からも遠すぎず近すぎない場所で、とても暮らしやすいと感じています。新築も増え、世帯数に大きな増減は感じていませんが近隣を見ていると子供の数は減っていくのではないかと少し心配には思っています。出来れば、小学校のクラス2～3クラスは編成できる子どもの数が安定していることが理想かなと思います。地域の行事やイベントには出来るだけ参加したい（しよう）と思っていますが、子どもが小さいうちは負担もあり参加しにくいですが、子どもが小さい頃に地域の方に積極的に声をかけて頂いていたことが、今でも交流しやすい雰囲気につながっているので、今後は自分たちが若い世帯へ呼びかけて、子どもが小さい頃から（子ども会に入らない年齢のことで。年中くらいまで）参加してもらえ（参加しやすい）雰囲気を作っていきたいです。

もっと水害に強い地域にしてほしい。小学校の下校のときの見守りをしていただいているのが良いと思う。

老人の方々は老人会と言って活動されていますが、子育てが一段落した 40 代後半～50 半ばくらいの人達が集まって交流出来る場があれば嬉しいです。

私達が幼少の頃は、大正学区はマンモス校（小・中学校共に）子どもの人数も多い地域だとイメージが残っています。しかし現在は小・中学校共に2クラス・・・少ないように感じますが、子ども・親共にお互いに顔・名前が分かる関りやすい環境（人数）だと思います。しかし、地区によっては子どもの人数が少ない所もあり、子ども会・PTA等役まわりが多いように思います・・・そこがネックです。

子どもたちが多くいるところ、街中なので便利なところ、良いところだと思います。アパート暮らしだとあまり交流する機会がない・引っ越して大正地域にくるとなかなか交流の機会がない←良くなってほしいところです。

優しい方が多いと感じるが、普段からの交流が少ないので年に1回でも近所での行事があればいいと感じる。

小規模地区のため地域の繋がりがもちやすい。水害は心配。普段から地域での交流の場を増やして声掛けあえる関係を築けるようにしていきたい。

周りに知り合いが多く住みやすい。水害は心配

公園や広場を作ってほしい、道路の舗装、地域参加型のイベントを多くして

子ども、老人の活性化につながる施設がない

親子で参加できる行事がたくさんあればいい。子どもとお年寄りが触れ合える機会があればいい。登校時の見守りボランティアが多く安心。

水害に対しての不安を少しでも解消できればよい。

水害対策をしっかりしてほしい。

生活に必要な施設が近くにあり、住みやすい

行事の数や規模が大きく、参加するのに大変な労力が必要と感じています。もう少し規模を縮小し簡易的にして誰でも簡単に参加できるようになればと思います。

今で十分色々な活動をされていますので良いと思います。

街中から少し外れているので交通量もそれ程多くなく、子供の通学や遊び場所などは不安がそれ程無いので、住みやすいと思います。  
水害が多いので、それが心配です。

H26 豪雨での被災経験から共助の考えを持っておられる方が多いように思います。

若い年齢の人の意見が通りやすくなれば良いと思う

子どもがいると関る機会があると思うが、子どもがおらずアパートに住んでいると、関る機会がほとんど見当たらない。大学生がアパートに多く住んでいると思うので、せっかく若い人が多いのだから、一緒にできることを考え、積極的にさそってはどうか。

社会体育がさかん  
若い世帯も多く活気がありそう ←良し悪しですが  
人数が少なくないので一部の人にいろいろな役をまかせればなしになっている人がいる  
いろいろな年代・立場の人が自分の考えを気がねなく言える関係・場・機会があればいいな  
と思う

新しい住宅も増え、新たな人間関係を産むような取組が必要である。昔を知る人が高齢化や亡くなることから新たな機会作りが必要と思われる。

地域の活動が分かるメールやSNSがあると、活動が認知されるきっかけとなると思います。

皆さん親切だし、のんびりした雰囲気の良いところだと思います。

子供が1人で帰っている所を見かける事があるので、1人で帰らないようにしてあげたい  
自転車の乗り方がまだまだな子供が遊んでる所を見ると、こっちが心配になる。知っている子なら声かけするが、知らない子となると声をかけづらい・・・(変な人と思われそう)